

# グループ学習におけるファシリテーター役配置の効果

The Effectiveness of Establishing the Role of Facilitator in Group Learning

鷲 尾 敦

Atsushi Washio

白 井 靖 敏

Yasutoshi Shirai

下 村 勉

Tsutomu Shimomura

## ( 要 約 )

考えや学びを深める学習には、学生の主体的な参加を促す授業づくりが必要で、グループ学習は有効な手段である。グループの成果物を求めるグループ学習において、ファシリテーターの配置でグループ学習が活性化することを検証するために、ファシリテーターを配置するクラスと配置しないクラスのグループ学習の状況を比較した。その結果、ファシリテーターを置きリーダーとの役割を明確にすることによりグループ討論が活性化し、学習の深まりや作品内容に討論の成果が認められた。

## (キーワード)

グループ学習、ファシリテーター、学習成果

## 1. はじめに

### 1. 1 背景

初等中等教育に「総合的な学習の時間」が導入されて以来、各学校は、「自ら学び自ら考える力の育成」等「生きる力」を育成するために、学習内容やその進め方について試行錯誤を繰り返し、多くの成果や課題を残してきた<sup>1-6</sup>。その活動は児童生徒の参加型の授業であり、グループ学習が大いに取り入れられている。「総合的な学習の時間」を効果的に進めていくためには、教師がグループ学習を理解し体験する必要があると考え、グループ学習を取り入れた教師教育プログラムの実践開発を行った<sup>7-11</sup>。

教師の知識が一方向的に流れていく講義は、教員が用意した知識を学生に効率的に転移することができる。しかし、受け取った知識が他の知識とつながり考えを深めていくには、受動的に知識を受け取るだけでは難しい。知識に対する学生の主体的な関わりがあつてこそ、受け取った知識が他の知識と結びつき、考えを深め、創造に繋がっていくと考える。だからこそ、考えや学びを深める学習には、学生の主体的な参加を促す授業作りが必要である。「新たな学習観」という背景の下に、アクティブラーニングや協調学習などと様々な形態の学生参加型の授業が高等教育に取り入れられている。こうした学習の中でもグループ学習は、学生相互の学び合いが生じ、学びの深まりと広がりを起こすものとして有効である。しかし、単にグループを作るだけで効果が期待できるわけではない。平成22年度に実施した大学生への調査<sup>18</sup>では、学生が感じるグループ学習の成果は、学習の内容の深まりよりもコミュニケーション能力の向上や発表方法などグループ学習の進め方にあった。目標とする学習内容よりも学習する手段

の理解の方が深まったということである。また、グループ学習の進め方によっては、学生が授業に疑問を呈することもわかった。一つは、授業における教員の姿勢である。学生によるグループワークばかりで担当教員からの指導やグループ活動に対する教員の評価がなく、その教員でなくともよい授業であったり、グループ学習が教員の手間を省いているだけのように感じられたり、その結果教員の熱意を感じられない授業である。科目名が変わっても同じ教員であればグループテーマが似ており、授業が同じであると学生が感じてしまうケースもあった。二つ目には、授業の進め方やグループ学習を取り入れた授業コーディネートの方法である。反省会や振り返りの機会もなく、活動をするだけで内容が深められていない、限られた時間内での調査活動ではインターネットからの引用が多く根拠に乏しく、学習内容について疑問が残る。毎年似たテーマで同じ資料を使って他班との違いや広がりもなく、グループワークの意義が感じられないなどの学生の声があった。三つ目は、グループ作りである。役割がいつも同じになったり、自己主張の強いメンバーの方向へグループが流されたり、メンバー間に温度差があつたり、意識の低い学生が参加しないなどの問題である。そして、四つ目に、成績評価の問題である。グループの成果物を成績評価の中心におく場合、グループメンバーが同一評価され頑張った学生が不満を持つことがある。グループ学習による良い面を引き出すには、このような課題を克服していく必要がある。

## 1. 2 目的

効果的なグループ学習を進めていくにはどうしたらいいのであろうか。グループ学習は多様なメンバーがいて、様々な意見や考え方を共有し合ってこそ活性化する。その点について、望月らは「チーム学習」と称してメンバーの役割分担やグループ作りなどの重要性を指摘している<sup>12-15</sup>。グループの目標やグループメンバーのつながりを作ることと、グループ活動で必要となる機能をメンバーが分担することである。我々はグループ活動を促進する役割として、ファシリテーターに着目した。グループ学習における話し合いにおいて如何に討論を深く進めるかが重要で、討論を活発に進めることができることが学習の効果に影響する。そのグループ討論を深く進めるためにファシリテーションが重要ではないかと考えた。ファシリテーションがうまくいくことで、意識の低い、あるいはコミュニケーションが苦手なメンバーがいても討論に参加することができ、あるいは、どんどん勝手に話を進めていく者がいても、他の意見も引き出すなどによって、議論が促進され、学習内容の深まりや広がりにつながる。

グループ学習といつても、授業の内容や分野、授業のねらい、学生の状況によって様々なものがある。大山<sup>16</sup>らは、事前学習と事後の成果物によっていくつかの学習に分類している。我々は、従来の講義形式にグループ学習を取り入れた授業と、成果物を作りあげる演習的な形態の授業に対して、ファシリテーターによる討論支援の有効性について研究を進めた<sup>17-21</sup>。グループ学習のファシリテーション効果について実践を通して調べながら、ファシリテーターを置くグループ学習を取り入れた授業プログラムの開発を進めている。本研究は、そのうちグループによる成果物を求めるワークショップ的な授業形態でのグループ学習についての研究である。これまでにグループ作りを十分行ない、グループ内の役割を明確にすることでグループ討論が活性化することを示した<sup>17,18,20</sup>。グループ作りの活動として、まず互いを知るために自己紹介や自己紹介などのメンバーを知る活動を行い、次にグループアイデンティティを確立するために、グループ目標やグループ名、その命名理由、メンバーなどについて他グループに紹介する活

動を進めた。この活動により、グループ学習の課題の一つであるグループ内でのメンバー間の学習に対する温度差などの課題を取り除くことができた。さらにファシリテーターなどの役割分担をすることで、グループ学習が活性化した。しかしながら、ファシリテーターを置くことが本当に有効なのかということに対しては、他の要因も考えられ、明快な回答にはなっていなかった。

そこで、今回はファシリテーターの部分にのみ違いをもたらせた授業実践による比較調査研究を行った。グループの成果物を求めるワークショップ的な授業において効果的なグループ学習を進めるには、ファシリテーターを置くことが有効であるという命題を確かめるため、グループでの幼児向け電子紙芝居教材制作を課題とした授業でファシリテーターの有無によるグループ活動や学習成果への影響を調査した。

## 2. 調査方法

### 2. 1 調査概要

平成23年8月にN女子大学文学部児童教育学科幼保コース4年生対象の集中講義「教育の方法と技術」において、ファシリテーターを置かないクラス（Aクラス47名）と置くクラス（Bクラス43名）でグループ制作の課題を課し、学習状況や学習成果について比較し、ファシリテーターの存在による影響を調べた。

表1 比較クラス

対象とするクラスは表1の通りである。各グループとともに、教員側でメンバーを指定した。4年生

クラス名	ファシリテーター	実施時期	クラス人数	グループ数（メンバー数）
Aクラス	無	H23/8/3, 4, 5	47名	8グループ（5, 6名）
Bクラス	有	H23/8/9, 10, 11	43名	8グループ（5, 6名）

であるため、多くのグループ学習を経験している<sup>18</sup>ことから、少しでも討論が友人同士の馴れ合い的な会話にならないよう、いつもとは違うメンバーとなることを意識したグループ分けをした。

### 2. 2 授業について

#### （1）授業の特徴

グループでの作品制作と発表を中心とする成果物を求めるワークショップ型授業である。幼児教育、保育活動で活用できる電子紙芝居教材制作をグループで制作することを通して、教材の制作方法、保育や幼児教育での教材の在り方や活用方法について考えさせた。

#### （2）授業の流れ

授業は、両クラスともに1日5限の3日間の集中講義である。授業の流れは図1の通りである。KJ法やブレーンストーミングなどのグループ討論の手法や、教材制作の方法などについて

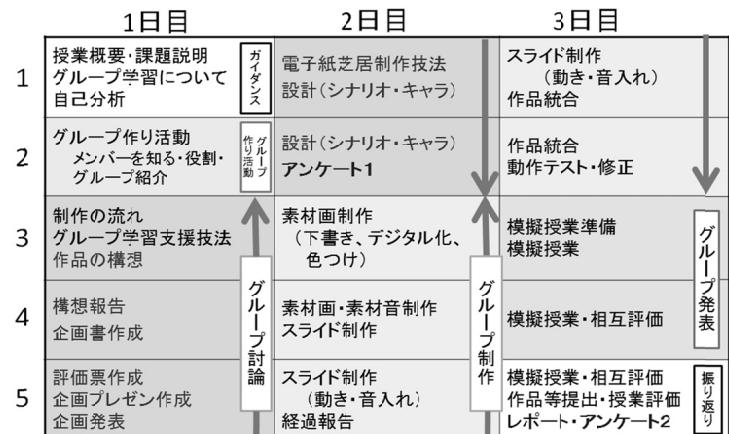


図1 授業の流れ

全体向けのミニ講義を適宜入れながら、グループ活動をメインに進めた。グループ活動の主な内容は表2の通りである。まずグループ作り活動を行い、次に、作品の構想、企画、設計を進めるためのグループ討論である。ここでは、企画書やシナリオを作成し、キャラクタの設計をさせた。さらに、制作の目標ともなる作品及び模擬授業の評価項目を考えさせ、グループごとに評価票を作成させた。その評価票は、他グループが自グループの作品や模擬授業を評価する際に用いる。グループ討論による設計段階の次は作品制作を行い、完成したグループから模擬授業の準備を進め、その後模擬授業と評価票による相互評価を行った。最後に作品の提出や授業評価、授業を振り返るアンケートを行った。

### (3) 役割

グループ作り活動の中で、決めさせた役割は表3の通りである。ファシリテーターの有る無しの観点での比較なので、Aクラス、Bクラスで配置した役割は異なっている。それぞれの役割については事前に説明を行なった。

### (4) ファシリテーターの指導

Aクラスにはファシリテーターを置かず、Bクラスではファシリテーターを置いた。リーダーがどのような役割かについては学生は理解があるが、ファシリテーターについては理解がない<sup>18, 21</sup>。本来ファシリテーターがすべき仕事をリーダーのすべき役割と考えている可能性が高い。そのため、Bクラスでは、ファシリテーターの説明をするとともに、リーダーとの違いを明確にするために、次のような説明をした。

#### 【リーダー】

- ・全体を統括する。
- ・プロジェクトや会議結果に責任を持つ。
- ・討議した内容やプロジェクトの報告に責任を持つ

#### 【ファシリテーター】

- ・討議において、発言を促したり、議論の方向を修正する。
- ・討議内容からは第三者的に参加し、グループが結果を出せるよう良い方向に導く

表2 グループ活動

1 グループ作り活動	
・自分を知る活動	自己分析
・メンバーを知る活動	自己紹介、他己紹介
・役割	役割を決める
・グループを一つにする活動	グループ紹介作成、方法、目標設定
2 グループ討論	
・作品構想、企画書作成、シナリオ・キャラクタ設計、評価票の作成	
3 制作	
・素材制作、スライド制作、作品統合、動作確認	
4 模擬授業	
・準備、練習、模擬授業、相互評価	

表3 役割

・グループ討論における役割
【Aクラス】 リーダー、報告、司会、記録、資料整理
【Bクラス】 リーダー*、ファシリテーター*、記録、資料整理
※リーダーは報告、ファシリテーターは司会も担当
・制作活動における役割
リーダー、進捗管理、情報技術、作品管理、作画技術

表4 リーダー&amp;ファシリテーターの役割クイズ

次の役割はどっち、リーダー？ ファシリテーター？	
1	グループ全体の活動に責任を持つ
2	会議の内容に責任を持つ
3	テーマの趣旨に沿って多様な意見を引き出し、話しやすい雰囲気を作る
4	グループを代表して発表、報告を行なう
5	課題の内容、作品の完成度について責任を持つ
6	討議の結果を実践することに責任を持つ
7	討議を結論に導くことに責任を持つ
8	時間内に議論を進める
9	討議の時、司会を行い討議がスムーズに進むようする
10	討議の時、多様な意見を引き出す工夫をする
11	討議が煮詰まってきて、最終の判断を下す
12	グループ活動全体をうまく進める
13	会議運営を円滑に進める
14	会議の内容には責任を持たず、進め方に責任を持つ

※リーダー (1, 2, 4, 5, 6, 11) ファシリテーター (3, 7, 8, 9, 10, 12, 13, 14)

どのような作品を制作するのかを検討するために、グループ討論ができる教室に移動した。討論を始

める前に、改めてリーダーとファシリテーターを前方黒板の前に集め、リーダーとファシリテーターの役割の理解について確認した。理解を促進するため、表4に示す14のクイズを出して、それぞれがリーダーの役割かファシリテーターの役割かをその場で答えさせ、両役割の理解を深めた。

### 3. 授業の様子

図2に示すような雰囲気で、グループ討論を進めた。黒板には、リーダー、ファシリテーターの役割や、ブレーンストーミングの進め方のルールを示している。授業後のアンケートから、KJ法や、特にブレーンストーミングの「批判はしない」などのルールを体験すると、学生は思いのほか感動し、この進め方で両クラスともにグループ討論を活発に行なっていた。また、図3に示すような状況で教材を制作し、両クラスともに素晴らしい作品（図5）ができあがった。模擬授業も各グループが工夫を凝らし、楽しい雰囲気の中で模擬授業が展開されていった（図4）。授業そのものは、両クラスともにうまく進行し、学生たちの授業アンケートからも充実した時間を過ごしていたことがわかった。

一見、どちらも良い結果に終わっているようであるが、詳細を見ると違いがあった。グループ討論の終了時（2日目2限目終了時）と最後の振り返りの時（3日目5限目）にアンケート調査を行なった。その分析結果を以下に示す。



図2 グループ討論の様子



図3 制作の様子



図4 模擬授業の様子



図5 A, B両クラスの電子紙芝居グループ作品  
作品掲載 URL : [http://www.takada-jc.ac.jp/washio/kougi/2011/kyouiku\\_gijutu/work/work.html](http://www.takada-jc.ac.jp/washio/kougi/2011/kyouiku_gijutu/work/work.html)

#### 4. アンケート結果と考察

##### 4. 1 ファシリテーター、リーダー役のグループ討論への参加度

###### (1) グループ討論に参加（発言）できたか

「グループ討論に参加（発言）できたか」と尋ねたところ、討論への参加度は、両クラスとも高評価でクラス間の差はあまりない（図6）。ここには掲載していないが、討論の満足度でも同様であった。Bクラスのファシリテーター、リーダーの参加度が高く、特にファシリテーターは高い。同じリーダーであつてもBクラスがAクラスより高い。また、司会と比べて圧倒的にBクラスのファシリテーターの参加度が高い。Bクラスでは、ファシリテーターとリーダーが役割を強く意識して参加していたと言える。ファシリテーターを置くことによってリーダーの参加度に変化があるところがポイントである。

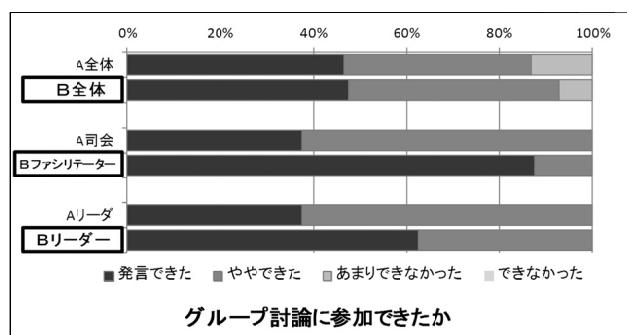


図6 グループ討論への参加度

## (2) グループ討論に負担感はあったか

グループ討論への負担感も、両クラス共に差がなく、20%弱と低かった。その中で、Bのファシリテーター、リーダー役の負担感は他に比べて高く、特にファシリテーターは高かった(図7)。意識して参加している分、負担感も増えると考えると、ファシリテーター役を置くことにより、ファシリテーター、リーダー両役の学生が、役割を意識してグループ活動により積極的に参加していたと言える。

### 4. 2 グループ内のファシリテーター評価

#### (1) 話しやすい雰囲気作りをしたのは誰か

話しやすい雰囲気作りは、ファシリテーションの要素の一つである。「グループの中で誰が話しやすい雰囲気作りをしていたか」を尋ねた結果を学生の役割で集計したのが図8である。Aクラスでは、「他のメンバー(司会、リーダー以外)」が多く、役割に関係なく誰かが話しやすい雰囲気作りをしていた。Bクラスでは、ファシリテーターがやや高く、ファシリテーター役が自分の役割を意識していたことがわかる。Aクラスの司会は進行役であるが、話しやすい雰囲気作りまでは意識していなかった。ファシリテーターの役割を示すことにより、ファシリテーションが意識してなされていたと言える。

#### (2) ファシリテーター(司会)役の評価

「グループ内で話し合いをスムーズに進行したのは誰か」「グループ内で話しやすい雰囲気を作ったのは誰か」の2つの質問で、Aクラスの司会役、Bクラスのファシリテーター役がグループ内で何人からその役をしている人として認識されていたかをカウントし平均をとった得点を表6の基準で記号に置き換えたのが表5の「司会・ファシリテーター役のファシリテーション評価」の欄である。

Aクラスでは、司会役8名のうち半分の4名の評価

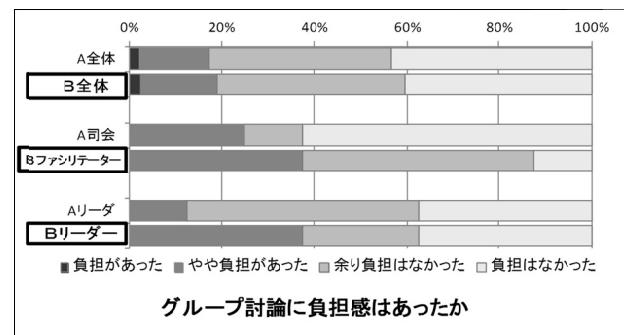


図7 グループ討論への負担感

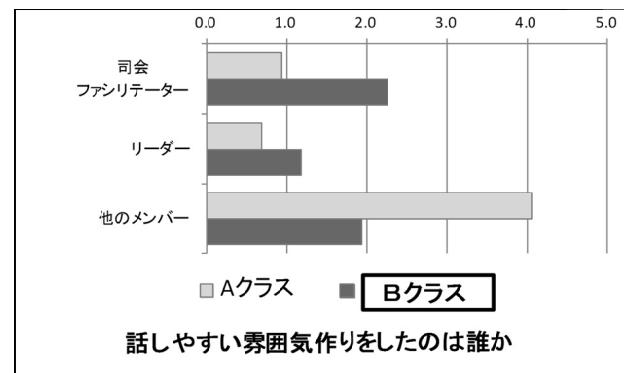


図8 ファシリテーター的であった人は誰か

表5 ファシリテーターとリーダーの状況

クラス	グループ	司会・ファシリテーター役の評価	リーダー役のリーダー評価	討論での発言度	電子紙芝居についてのコメント字数	模擬授業についてのコメント字数
Aクラス	1	×	◎	○	123	71
	2	△	×	△	○161	105
	3	×	×	◎	129	74
	4	○	×	×	△159	98
	5	△	○	○	103	65
	6	×	○	△	113	80
	7	×	×	◎	△144	117
	8	△	×	×	84	53
Bクラス	1	△	○	○	○180	△130
	2	◎	○	○	○190	114
	3	△	△	○	○195	○188
	4		○	△	○239	114
	5		○	△	○161	98
	6	○	○	○	○182	○161
	7		△	○	○229	△151
	8	△	○	○	○226	△130
				Aクラス平均	127	83
				Bクラス平均	200	136

が「×」となった。Bクラスのファシリテーター役には「×」評価はなく、どのファシリテーターも悪くはないと言える。ファシリテーターの役割について学んだBクラスのファシリテーター役は、役割を意識しファシリテーションをしていた。一方、ファシリテーションについて特に説明はしていないAクラスでは、司会が進行役であるけれども、ファシリテーションまでは、特に意識していなかったと言える。

#### 4. 3 グループ内のリーダー評価

##### (1) 決断をしていたのは誰か

「グループ内で決断をしていたのは誰か」を尋ねたところ、Aクラスではリーダーと答えた者が若干多い程度であるが、Bクラスではリーダーがずば抜けて多い。Bクラスでは、ファシリテーターの役割を明確にするにあたって、リーダーの役割についても改めて理解させた。これによって、リーダーとして「決断をする」という役割をより意識したのではないかと考える。一方Aクラスにおいてもリーダーが若干多いのは、学生がファシリテーターに比べリーダーの役割について理解している<sup>18,21</sup>ことから、Aクラスのリーダー役も決断者としてのリーダーを多少意識していたと考えられる。

##### (2) リーダー評価

前述の「グループでの話し合いの決断者は誰か」で、これをリーダー役の学生だと回答した数をカウントした。表6の基準で記号に置き換えたのが表5の「リーダー役のリーダー評価」欄である。Aクラスでは、リーダー役の半分が評価「×」となっている。一方Bクラスでは、全リーダー役の評価が高い。ファシリテーターを意識したグループ活動であったが、その役割を明確にするためリーダーの役割についてもより明確になったことがこのような結果を生んだのではないかと考える。

#### 4. 4 ファシリテーターとリーダー役の働きと発言度

表5の「討論での発言度」欄は、「グループメンバーの発言が多かったか」の問い合わせの4段階評価の回答をグループごとに集計したものである。回答は、多い：4点、やや多い：3点、やや少ない：2点、少ない：1点で、点数が高い方が発言度が高くなる。全体的にどちらのクラスも発言度は高いので、表6に示す値に評価基準を引き上げたところ、次のような結果が現れた。まず、Aクラスでは発言度の高いグループと低いグループが混在しているが、Bクラスでは「×」がつくグループはない。また、Aクラスでは、司会役のファシリテーター評価、リーダー役のリーダー評価が低くても発言度が高いグループが2グループある。ファシリテーションがなされなくとも、グループ討論が活発となった例である。一方Bクラスでは、ファシリテーター、リーダーが役割を果たしており、グループ討論での発言度が低いグループはない。ファシリテーターがない従来のグループ討論では、討論がうまくいくグループとい

表6 表5に用いた評価基準

ランク	役割	発言度	コメント
◎	大変高い評価	$\geq 4$	=4
○	高い評価	$\geq 3$	$\geq 3.8$
△	やや高い評価	$\geq 2$	$\geq 3.6$
空白	標準	$\geq 1.5$	$\geq 3.4$
×	低い評価	$< 1.5$	$< 3.4$

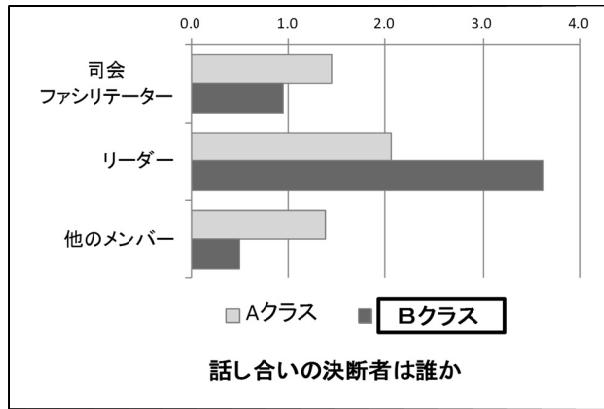


図9 リーダー的であった人は誰か

かないグループができてしまうが、ファシリテーターを置くとファシリテーションがなされ、「討論に参加できない」あるいは「参加しないメンバー」にも発言を促し、討論が進んでいくということが言える。

#### 4. 5 ファシリテーターがいる場合のリーダー役の意識

B クラスのリーダー役、ファシリテーター役の学生の声（表 7）を見ると、リーダー役の学生がファシリテーターの役割と自分の行うリーダーの役割について意識をしながら参加していたことがわかる。リーダーとファシリテーターの両役割を明確にすることがファシリテーションを機能させ、グループ学習を活性化させるポイントであろう。

表 7 B クラスのリーダー、ファシリテーター役の声

---

##### 【リーダー】

- ・リーダーを務めた。まとめることは苦手でしたが、ファシリテーターに助けてもらいながら、終えることができた。
- ・ファシリテーター中心に話を進めていく中で、リーダーとして全体とどうかかわっていくか悩みながら討論をしていた。
- ・ファシリテーターがいたので、グループのほとんどの人が意見を出すことができていた。
- ・リーダーとして、みんなをまとめる役を買って出たが、本当に難しく、3日間とも悩んだ。討論は、ファシリテーターがみんなのバランスを取ってくれながら行えたと思う。

##### 【ファシリテーター】

- ・私はファシリテーターを担当していたが、話をまわすこと、第三者的な立場から話し合いを見ること、楽しい雰囲気でみんなが参加できるようにすることなど、思っていた以上に難しかった。
  - ・ファシリテーターという初めての役割を通して、全体を見ながら討論をしたり、第三者としての立場から意見を言ったりすることの重要性を感じた。
- 

#### 4. 6 学習成果への影響

##### （1）授業後の振り返りのコメントから

授業の最後に、電子紙芝居作品と模擬授業について振り返りをさせた。電子紙芝居作品については、「みんなの作品、自分たちの作品についての感想」、模擬授業についても「みんなの模擬授業や自分たちの模擬授業についての感想」としてコメントを書かせた。

コメントの字数について表 5 の「電子紙芝居について コメント字数」「模擬授業について コメント字数」欄にグループごとの平均字数をまとめた。コメント量のクラス平均は、電子紙芝居作品については A:128 字/人、B:201 字/人、模擬授業については A:83 字/人、B:136 字/人となり、B クラスが大変多く、A クラスでは、字数の少ないグループが多数あった。B クラスでは、ファシリテーション効果により、どの学生もグループ討論に参加することができた。意見交換をするためには、発言をすると同時に周りの意見を積極的に聞く態度とそれについて考えていく態度がなければ発言を続けていくことができない。このように積極的に聞く、考える、話すことの積み重ねでグループ討論が進むとともに、一人ひとりの中に知識や考えの深まりが蓄積され、作品や模擬授業に対する多様な意見や考えを持つことができるようになったと考える。

##### （2）グループ成果物から

グループ学習の成果物として、各グループから企画書、シナリオ、作品が提出される。また、グループのパフォーマンスとして模擬授業がある。本稿では担当教員による成果物の評価結果を掲載していないが、企画書、シナリオ、作品のグループ提出物について点数化した。クラス平均をとったところ、A

クラスよりもBクラスの方が点数が高い結果となった。これは、グループ討論での成果が企画書やシナリオに直接反映するとともに、それによって方向付けがなされた作品にも討論の成果が反映されているということである。

一方、個々の作品を見ると、Aクラスにおいて、リーダー、ファシリテーターがうまく機能していなかつたと見られるグループでは、一人のアイデアでも作れるような、議論の結果が反映されていない作品があった。また、Bクラスのリーダーやファシリテーターがうまく機能していたグループでは、ストーリーがしっかりとし、展開にも議論の成果が十分にあったと思われるひねりが加えられた作品があった。意見を重ねた結果が、制作する作品のストーリー展開に十分に反映されたと言える。

## 5.まとめ

### 5.1 結論

グループ成果物を求めるワークショップ型の授業において、ファシリテーターの有無によるグループ学習（制作）の状況や成果を比較した。その結果、ファシリテーターとリーダーの各役割を明確にすることによって、次の効果があることがわかった。

- (1) ファシリテーターとリーダー役になった者は、グループ討論への参加意識が高まる
- (2) ファシリテーション効果が表れグループ学習が活性化する。具体的には次の効果が得られる。
  - ①「議論を人任せにする」「話し合いが深まらず楽しくない」などグループ学習が成り立たず失敗に終わる状況を回避することができ、どのグループもグループ討論が活性化しグループ学習を進めていくことができる。
  - ②ファシリテーションによって多様な意見交換が促進され、グループ討論が活性化し、制作を進めていく過程において学習の深まりが得られる。
  - ③最終的な成果物であるグループ作品に、グループ討論での多様な意見交換の成果が反映される。

### 5.2 今後の課題

今回、グループ学習にファシリテーター役を置き、ファシリテーター並びにリーダーの役割を明確にすることによって、ファシリテーターとリーダー役が他のメンバーと比べて討論への参加意識が高くなることを確認した。これは、全員がファシリテーターとリーダーの役を担う経験をすることで、グループ討論を進める意識や能力を得て、グループ学習を効果的に進めることができるという可能性を示している。この知見をもとに、今後はファシリテーター役を経験する授業プログラムの開発を進めていきたいと考えている。

また、今回は、ファシリテーション効果によりグループ討論が活性化し、グループ目標である作品成果の向上や学習を通じた意見や考えの深まりなどに良い影響が見られた。しかし、作品は一人であっても良いものができることもある。グループであっても良い作品とはならないこともある。グループ学習の成果としての作品には、良い作品であっても一人でもできそうなものではグループ学習の意義がない。お互いの考えをぶつけあって、意見に意見を重ねて、目指す作品をより良いものに展開していく過程が重要であり、作品にその過程が見える指標で評価できることが望ましい。今回は、作品からグループ学

習の成果を認めたが、作品そのものから個々の学生の学習の深まりを評価することができていない。つまり作品などの成果物を使ってグループ全体のプロダクト評価はできても、グループ学習において培われた個々の学生の能力、例えばファシリテーション力やコミュニケーション力などの能力を評価できていない。また、それは評価の対象でもなかった。グループ学習における評価には、プロダクト評価だけでなく、学習の過程つまりプロセス評価の視点も必要なのではないかと考える。以上から、授業のテーマに関する知識や学習成果物だけではなく、グループ学習の過程で培われて評価すべき能力は何か、そしてその評価をどのように行うかなどを、我々の新たなテーマとして探究していきたいと考えている。

本研究は、平成 22 年度 科学研究費補助金（基盤研究（C）「ファシリテーターの育成を通した教育力向上プログラムの開発」（課題番号 22531035）による。

## 参考文献

- 1) 下村勉、白井靖敏、鷲尾敦、他 19 名、「総合的な学習の時間」の成果と課題についての検証と分析、三重県高等教育機関連絡協議会研究報告書、2004
- 2) 下村勉、白井靖敏、鷲尾敦、他 9 名、「総合的な学習の時間」の成果と課題についての実践的検証、三重大学創造開発研究センター研究報告第 12 号、pp.1-10、2004
- 3) 下村勉、白井靖敏、鷲尾敦、他 17 名「総合的な学習の時間」の実践検証と充実・発展への提案、三重県高等教育機関連絡協議会研究報告書、2005
- 4) 白井靖敏、濱口憲子、石谷幸久、下村勉、子どもの発達段階における「総合的な学習の時間」の学習形態や方法、日本教育工学会第 21 回全国大会論文集、pp.239-240、2005
- 5) 下村勉、小山史己、白井靖敏、鷲尾敦、須曾野仁志、落合英次、「総合的な学習の時間」の学習効果の分析、三重大学教育実践総合センター紀要 25、2005
- 6) 下村勉、白井靖敏、鷲尾敦、須曾野仁志他 9 名、「総合的な学習の時間」の実践検証と今後の展開、三重大学創造開発研究センター研究報告第 13 号、pp.5~12、2006
- 7) 白井靖敏、鷲尾敦、下村勉、「学習支援スキル」育成を目指した教員研修（1）～「総合的な学習の時間」コーディネーター養成講座を通して～、日本教育工学会第 24 回全国大会講演論文集、pp.545-546、2008
- 8) 鷲尾敦、白井靖敏、下村勉、「学習支援スキル」育成を目指した教員研修（2）～「総合的な学習の時間」コーディネーター養成講座におけるアンケート調査結果～、日本教育工学会第 24 回全国大会講演論文集、pp.547-548、2008
- 9) 白井靖敏、鷲尾敦、下村勉、「学習者参加型授業を促進する教員の学習支援スキル育成カリキュラムの開発」平成 19 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））報告、2009
- 10) 鷲尾敦、白井靖敏、下村勉、体験型教員研修における教員の意識変化～「総合的な学習の時間」コーディネーター養成講座におけるアンケート調査結果から得たもの～、日本教育工学会第 25 回全国大会講演論文集、pp.303-304、2009
- 11) 白井靖敏、鷲尾敦、下村勉、体験型教員研修における諸課題、日本教育工学会第 25 回全国大会講演論文集、

pp.305-306、2009

- 12) 望月紫帆、西之園晴夫、多様な能力の学生によるチーム学習と個人学習とを統合した学習の研究、日本教育実践学会研究大会論文集 7、pp.135-136、2004
- 13) 望月紫帆、西之園晴夫、宮田仁、多様な学生によるチーム学習と個人学習とを統合した学習の研究Ⅱ、日本教育情報学会第 21 回年会、pp.200-201、2005
- 14) 望月紫帆、西之園晴夫、宮田仁、質的分析法によるチーム学習と個人学習を統合した学習の研究Ⅳ、日本教育工学会第 20 回全国大会講演論文集、pp.1019-1020、2004
- 15) 望月紫帆、西之園春夫、宮田仁、チーム学習での満足度と学習成果の 3 チーム間の比較研究、日本教育工学会第 21 回全国大会講演論文集、pp.405-406、2005
- 16) 大山牧子、田口真奈、アクティブラーニング形態の授業実践におけるグループ学習の特質、大学教育学会第 32 回大会要旨収録、pp.60-61、2010
- 17) 鶩尾敦、チーム学習とディスカッションを重視した学習者参加型授業の効果、高田短期大学紀要第 27 号、pp.107-118、2009
- 18) 鶩尾敦、白井靖敏、下村勉、高等教育におけるグループ学習を深めるために（1）アンケート調査結果からの考察、日本教育工学会第 27 回全国大会講演論文集、pp. 541-542、2011
- 19) 白井靖敏、鶩尾敦、下村勉、高等教育におけるグループ学習を深めるために（2）リーダーとファシリテーターの役割、日本教育工学会第 27 回全国大会講演論文集、pp.275-276、2011
- 20) 鶩尾 敦、グループ学習の効果をあげるためのグループ作り、高田短大紀要第 30 号、pp.55-66、2012
- 21) 白井靖敏、鶩尾敦、下村勉、グループ学習の現状とファシリテーターの役割、名古屋女子大学紀要 58 号、pp.109-118、2012